

折に触れ 四字熟語

NO. 182 『春風駘蕩』 しゅんぷう たいとう

< 意味 > 春の景色ののどかなさま。春風がそよそよと気持ちよく吹くさま。また、温和でのんびりとした人柄のたとえ。

表 現 : 春風駘蕩たる趣がある

用 例 : 酒を愛し、郷人を愛し、いつも春風駘蕩といったような大人風な好々爺たいじん こうこうやであったらしい。
<吉川英治・忘れ残りの記>

語 釈 : 「駘蕩」は春ののどかなさま。のびのびしたさま。

一 言 : 外は明るい陽光が降り注ぎ温かい風が吹いています。これでコロナ感染対策の緊急事態宣言さえなければ1年で最高の季節ですが。

参考文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」